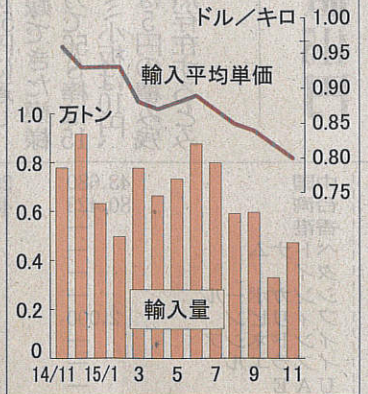


韓国廃バッテリー輸入

11月対日4割増4719トン
総量は3万トン割れ

韓国の対日廃バッテリー輸入
(韓国貿易統計より作成)



韓国政府がこのほど発表した貿易統計によると、11月の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の日本からの輸入量は4719トンと、前月比で43・1%増え、前年同月比では39・3%減った。輸入平均価格は前月よりキロ2%安い80セント

韓国政府がこのほど発表した貿易統計によると、11月の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の日本からの輸入量は4719トンと、前月比で43・1%増え、前年同月比では39・3%減った。輸入平均価格は前月よりキロ2%安い80セント

5カ月連続で下落。輸入総量は5カ月連続で減り、1年3カ月ぶりに3万トンを下回った。鉛リサイクル原料の廃バッテリーの対日輸入は、今夏の8785トンのピークから鉛相場下落の影響もあって減少傾向にある。10月には約4年ぶりの低水準の3297トンまで減ったが、11月は5000トン近くまで反動的に増加した。輸入平均価格は約5年ぶりの安値だった。

韓国の11月輸入総量は前月比3・2%減の2万9913トンで、過去最多の4万トンを記録した6月以降は減少が続いている。主な内訳はアラブ首長国連邦(UAE)7109トン、米国6788トン、日本4719トンの上位3カ国は変わらず。次いで

シンガポール1686トン、ニュージーランド1618トン、ドミニカ民主共和国1380トン、トーゴ1170トン、ブルネイ1129トンが1000トンを超えたが、新興国からの輸入は活気を欠いた。
なお、廃バッテリーから精錬加工する電気鉛の11月輸出は前年同月比29・5%増の1万5906トン、自動車用鉛バッテリー製品の輸出は8・4%増の5万8836トンといずれも高水準。電気鉛は東南アジア向けが低調だったが、米国、インド向けが伸びた。バッテリー製品輸出は廃バッテリー輸入先でもあるUAE、米国向けが好調だった。